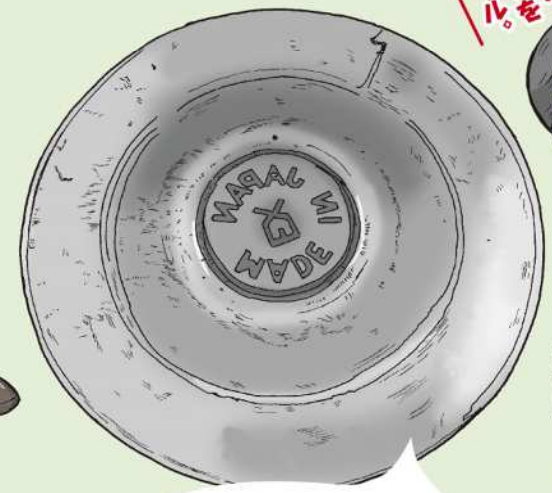


# 日本精機株式会社

「MADE IN JAPAN」  
 クロム刻印の  
 ニセモノ防止と海外の  
 取引先に  
 日本品質であることを  
 アピール



「うちの商売はトヨタ・ホンダ・日産のクルマを修理するだけじゃなく、海外のクルマも修理するんですよ。」



DOKUROは、海賊のように束縛されることなく自分の裁量と自分の船で、世界中を股にかける、という意味がこめられている。



取引先は海外。  
 南米・中東では有名ブランド。  
 DOKUROは

「シイの元直神さん、ほんとにすごい非公式で、日本の企業を見る見習ったこと、本当に感謝しています。」

代表取締役 高橋 祐子さん

世界の補修市場で欠かせない  
 ドクロマークのバルブ



創業者である父が戦争から帰ってきて、目の前に広がる焼け野原で見たのがアメリカの中古車。その時に、これからは車の時代が来ると思ったようです。そこからエンジンバルブを作り続けて約60年、世界の補修市場に日本品質の高性能バルブを供給しています。エンジンバルブ製造は日本で7社しかない。そのうち、5社が大手自動車メーカーの関連会社で、中小企業ではうちともう1社くらい。自動車メーカーは、次々に登場する新車もしくは数年程度の自動車の保守部品に対応。それに比べ、当社は世界相手に8割以上が発展途上国。日本車は部品を交換すれば、何十年も前の車が普通に走れるんです。純正の部品は値段が高かったり、古い車の部品はなかったりするので、当社に声がかかるんです。

3人姉妹の末っ子で、工場のあるこの場所で生まれ、工場の音やにおいの中で育ってきました。迷ったけれど、やっぱり家業は損得だけで考えられない。よく父が「水は高きところから低きところに流れる」と言っていたんです。ものごとには理屈があり、それをおさえれば、機械でもなんでもわかるって。うちは、海賊のようなパイオニア精神で商売の海を渡っていきます。「世の中の日の当たる場所に、バルブを」を思い続けています。



海外ではかつこいいとか関係なく、人、モノを運べるのが何台も欲しいんです。だから、補修市場は根強いんです。



## 世界70カ国にバルブを提供 下請けはせず、直接販売

日本精機は世界の70カ国に、「DOKURO(ドクロ)」というブランド名でバルブを販売。船舶向けディーゼルエンジン用の大型サイズからモーターバイク用の小型サイズまで扱うが、特に海外では、日本の中古車の修理部品としてのニーズが拡大している。

バルブとはエンジンの中で最も重要な部品で、燃料と空気を燃焼させる燃焼室のフタのような役割を果たす。エンジンを動かす時に必要な空気を吸入したり、燃焼によるガスの排気、そして燃焼室内を密閉するためのもの。バルブにゆがみや傷、漏れなどがあればエンジントラブルにつながるため、精密さが求められる。

同社では、鍛造という金属加工でバルブを製造。具体的には、金属素材を真っ赤になるほど焼き入れ、高圧プレスで圧力を加え、金型成形をする熱間鍛造を採用。それにより、金属内部の空隙をつぶし、組織を緻密にさせることで空洞が少なく、強度に優れたバルブに仕上げられる。複雑な形状の鍛造も可能で、安価にできるのが特徴だと言える。

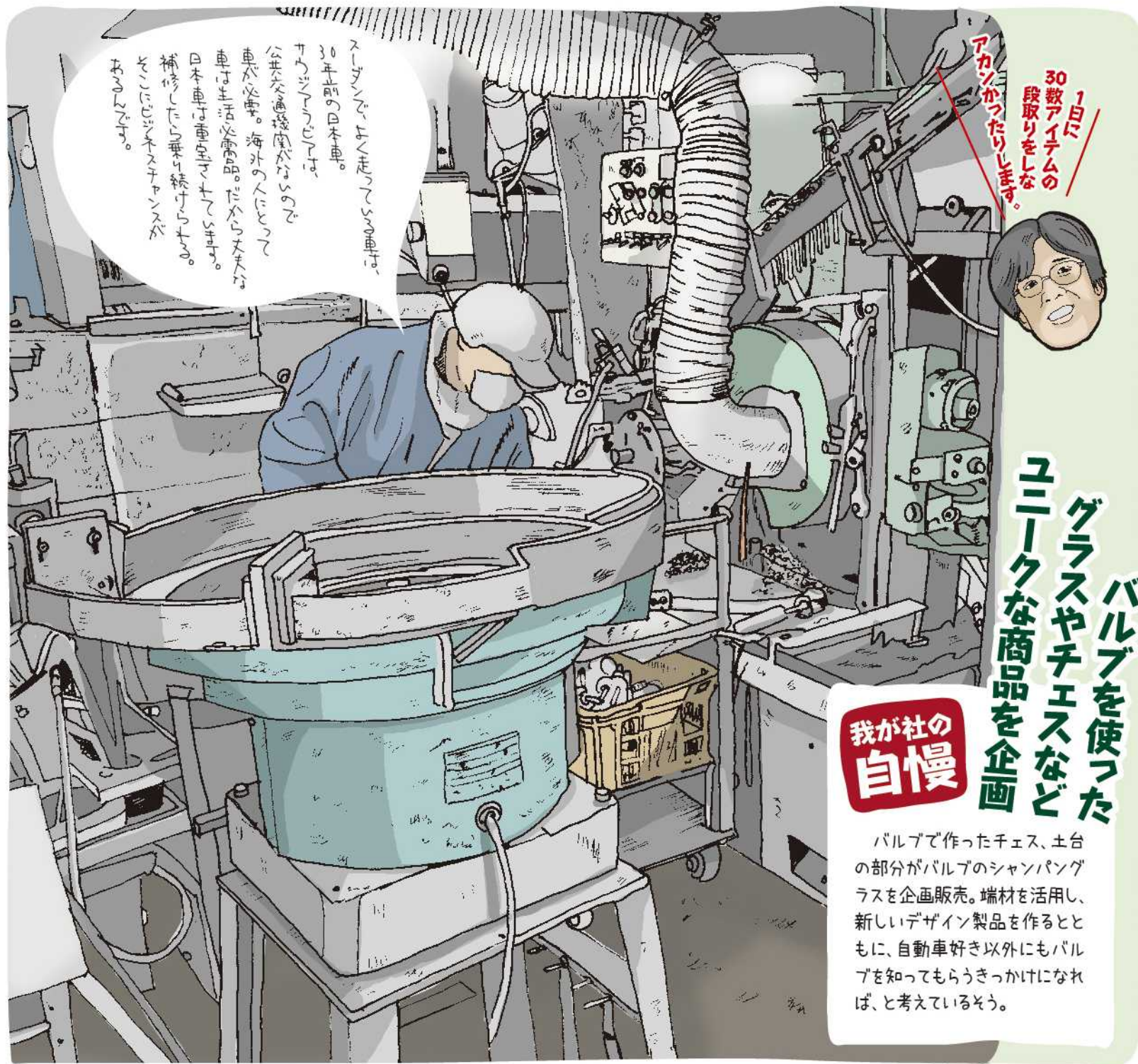
日本車の性能の良さは言わずと知れているがその中古車が世界に広がるにつれ、同社のバルブを世界に展開。30年、40年前のエンジンバルブを必要とされるエンドユーザーも多く、同社ではそのようなニーズに応えるために、多品種のバルブを製造。20個といった超小口のオーダーにも対応し、金型だけでも約2000種類、毎月500から600種類ぐらいのバルブを製造販売する。

同社は自動車部品メーカーだが、決して下請けではない。成功のカギは、鍛造から最終仕上げまで一貫生産し、自社ブランドで海外の補修部品市場に向けて自社販売に着目した点だと言える。

### 日本精機株式会社

<http://www.enginevalve.co.jp/>  
〒544-0005 大阪市生野区中川 5-13-5  
TEL 06-6753-0881 FAX 06-6753-0885

事業内容/エンジンバルブの企画・製造



バルブを使った  
グラスやチェスなど  
ユニークな商品を企画

我が社の  
自慢

バルブで作ったチェス、土台の部分がバルブのシャンパングラスを企画販売。端材を活用し、新しいデザイン製品を作るとともに、自動車好き以外にもバルブを知ってもらうきっかけになれば、と考えているそう。

「アカン」がついたりします。  
1日10  
30数アイテムの  
段取りをしな  
アカンがついたりします。  
30年間の歴史。  
サウジ、インド、中国、  
公共事業用のバルブの  
車が必要。海外のニーズは  
車は生活必需品。だから大きな  
日本車は修理部品に  
必要。修理部品は  
メンテナンス  
メンテナンス